

校内研修資料 カリキュラム・マネジメントって何!?

初出 2019/9/24 2023/3/15 更新

このことについてこれまで断片的に話題にしてきましたが、何となく全貌がつかめないと思うので、今一度基本事項に立ち返って確認します。まずは、『総則』の解説の拾い読みから……。●解説→『総則』p.69 で示している「② 各教科等及び各学年相互間の関連(第1章第2の3の(3)のイ)」よりはもっと広い意味があるということに注意してください。来年度に向けて、この後少しずつ取り組んでいきます。

カリキュラム・マネジメントの充実 ●解説→『総則』p.39 第1章第1の4) 下線 は後付け

4 各学校においては、児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと(以下「カリキュラム・マネジメント」という。)に努めるものとする。

カリ・マネの「三つの側面」

本文の要点を抜き出したものです。この3つを押さえておけばまあ OK です。

- ① 児童学校地域の実態を適切に把握、教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立て
- ② 教育課程実施状況の評価と改善
- ③ 教育課程の実施に必要な人、物の確保と改善

自校の教育課程の編成、実施、評価及び改善に関する課題がどこにあるのかを明確にして教職員間で共有し改善を行うことにより学校教育の質の向上を図る

以上について細かく解説したのが……以下のこと ●解説→p.40

ア 児童や学校、地域の実態を適切に把握すること

- ・各種調査結果やデータ等に基づき、児童の姿や学校及び地域の現状を定期的に把握
- ・保護者や地域住民の意向等を的確に把握

→学校の教育目標など教育課程の編成の基本となる事項を定めていく

肌感覚でわかることや、いま進めている学力学習状況調査の分析、普段からの学習評価等から、本校の子どもたちに必要なことって何? 重点的に指導するとしたらどんなこと? を皆さんで挙げていくとよいです。

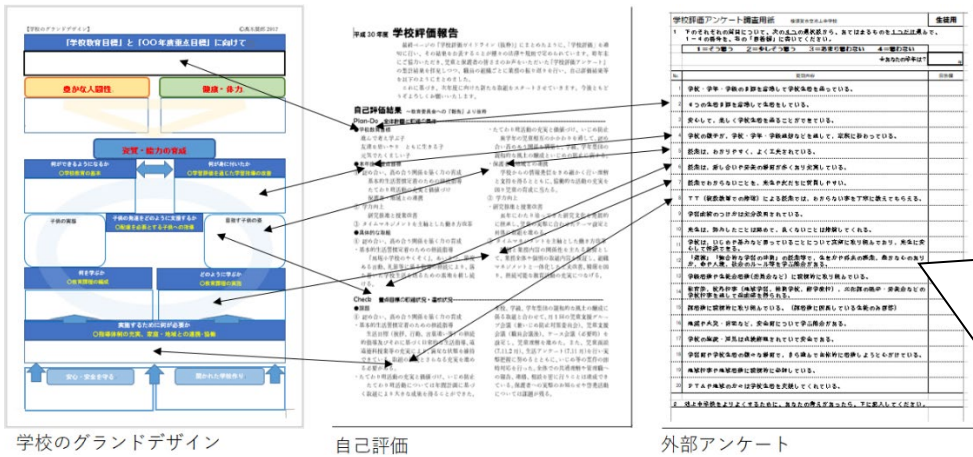
地域はともかく保護者の願いだったら簡単アンケートなどして調べてみるのもよいです。

イ 三つの側面を通して組織的かつ計画的に取り組む

[留意すること]

- ・校務分掌に基づき教職員が適切に役割を分担しつつ、相互に連携しながら
- ・学校評価もカリ・マネと関連付けながら実施

最近話題になって（提案して下さって）いる「学校評価アンケート」の項目などは、本当はこの「カリ・マネ」サイクルの一環として行うべきもの、ということになります。以下は自著『資質・能力を育成する学習評価』2020/3/3 東洋館出版社 より



●「学校のグランドデザイン」、「自己評価」、「外部アンケート」等は、それぞれに掲載された項目が相互に対応することになる。

●「学校評価結果」として保護者、地域等関係者に示す際にも、このことが伝わるようにできるとよい。

[手立て]

- ・学校の組織全体の中に明確に位置付ける
- ・具体的な組織や日程を決定

[目標を明確に]

- ・学校の経営方針や教育目標を明確にし、家庭や地域とも共有していく

前校長時代（～R3）のものを引き継ぎながら、独自の方針を加味してきましたが、今の学校教育目標等が本当に本校の児童保護者地域の実態を踏まえたものになっているかどうかということになると、結構アヤシイものがあります。前例踏襲でOK とするのではなく、これを改めてきちんと組織的にやりましょうという意味もカリキュラム・マネジメントにはあります。

「三つの側面」の具体

(ア) 教科等横断的な視点での組み立て

- ・各学校においては、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を選択
- ・各教科等の内容相互の関連を図りながら指導計画を作成
- ・児童の生活時間と教育の内容との効果的な組み合わせを考える
→年間や学期、月、週ごとの授業時数を適切に定める

[資質・能力の明確化]

- 「何を学ぶか」→教育の内容を選択して組織
- 「何ができるようになるか」→育成を目指す資質・能力を明確に設定

「教科等横断的な視点」に立った資質・能力

●解説一 第1章総則第2の2(p.47 から)→学習の基盤となる資質・能力

- ア 言語能力
- イ 総合的な学習の時間において教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習
教科等横断的な視点で教育の内容を編成する例について→●解説一 付録6参照(p.204)
この辺りが新学習指導要領の一番の“目玉”になります。『総則』の巻末(付

録6 ●解説→p.204～)にはこの“教科横断的な教育内容”が表になって書き出されています。全部読む気にはなれないけど、要は「これまでばらばらに扱っていた教科ごとの指導内容や、教科を超えたところで扱っていたことは、実はこんな風につながっているんだ!?」ということがイメージできれば良いと思います。

(イ) 教育課程の実施状況の評価と改善

- ・各種調査結果やデータ等を活用して、児童や学校、地域の実態を定期的に把握
- ・結果等から教育の目的や目標の実現状況や教育課程の実施状況を確認し分析
- ・課題となる事項を見だし、改善方針を立案して実施
- ・改善について
 - ① 校内の取組を通して比較的直ちに修正できるもの、
 - ② 教育委員会の指導助言を得ながら長期的に
- ・必要な体制や日程を具体化し組織的かつ計画的に取り組んでいく
- ・学校評価と関連付けながら実施→●解説→第1章総則第5の1ア(p.120)

(ウ) 人的又は物的な体制の確保と改善

- ・人的、物的な資源（人材や予算、時間、情報）を、教育の内容と効果的に組み合わせることが重要
 - ① 教師の指導力、教材・教具の整備状況
 - ② 地域の教育資源や学習環境（近隣の学校、社会教育施設、人材等）などについて具体的に把握
- ・学校の運営組織を生かし、各教職員がそれぞれの分担に応じて教育課程に関する研究を重ね、創意工夫を加えて編成や改善を図っていくことが重要
- ・地域でどのような子供を育てるのかといった目標を共有し、地域とともにある学校づくりを一層効果的に進める。

ここからが今後の取り組みの具体、ということになります。あちこちに書き散らかしたように、ゼロから始めるのではなく、これまでやってきたことを価値付けて、滑らかにつながっていく感覚を大切にしたいです。

★(手順)創意工夫を重ねながら具体的な手順を考える

(1) 学校の基本方針を明確にする。

全教職員が共通理解をもつ

ア 教育課程の意義、編成の原則など編成に対する基本的な考え方を明確に

イ 編成のための作業内容や作業手順の大綱を決め、作業計画の全体について定める

(2) 組織と日程を決める。

- ・担当する組織を確立し、それを学校の組織全体の中に明確に位置付ける。
- ・編成・実施の作業日程を明確にし、学校が行う他の諸活動との調和を図る
- ・既存の組織や各種会議の在り方を見直し精選を図るなど業務改善の視点をもつ

- ア 編成・実施のための組織を決める。
 - (ア) 各種会議の役割や相互関係について基本的な考え方を明確に
 - (イ) 学校の組織全体の中に位置付け，組織内の役割や分担を具体的に決める。
- イ 編成・実施のための作業日程を決める。
 - 分担作業やその調整を含めて，作業ごとの具体的な日程を決める。

(3) 教育課程の編成のための事前の研究や調査をする。

- ア 教育課程についての国の基準や教育委員会の規則などを研究し理解する。
- イ 児童，学校及び地域の実態を把握する。その際，保護者や地域住民の意向，児童の状況等を把握することに留意する。

(4) 学校の教育目標など教育課程の編成の基本となる事項を定める。

- ア 研究や調査の結果を検討し，学校や児童が直面している教育課題を明確にする。
- イ 学校の教育目標など教育課程の編成の基本となる事項を設定する。
- ウ 編成に当たって，特に留意すべき点を明確にする。

(5) 教育課程を編成する。

- ア 指導内容を選択する。
 - (ア) 指導内容について，その基礎的・基本的な知識及び技能を明確にする。
 - (イ) 学校の教育目標の達成を図るため，重点を置くべき指導内容を明確にする。
 - (ウ) 主体的に学習に取り組む態度、個に応じた指導を推進するよう配慮する。
 - (エ) 道徳教育及び体育・健康について，適切な指導がなされるよう配慮する。
 - (オ) 学校として，教科等横断的な視点で育成を目指す資質・能力を明確にする。
 - (カ) 総合的な学習の時間を適切に展開できるよう配慮する。
 - (キ) 単元や題材などのまとめ方や重点の置き方を検討する。
- イ 指導内容を組織する。
 - (ア) 各教科等間の指導内容相互の関連を図る。
 - (イ) 各教科等の指導内容相互の関連を明確にする。
 - (ウ) 発展的，系統的な指導ができるように指導内容を配列し組織する。
 - (エ) 各学年において，合科的・関連的な指導について配慮する。
 - この「イ」あたりをカリキュラム・マネジメントととらえている方が多いです。これだけだと“狭義”のカリ・マネになってしまいます。
- ウ 授業時数を配当する。
 - (ア) 各教科，道徳科，教科外指導の年間授業時数を定める。
 - (イ) 1年間の中で，学期，月，週ごとの各教科等の授業時数を定める。
 - (ウ) 各教科等の授業の1単位時間を適切に定める。

(6) 教育課程を評価し改善する。

実施中の教育課程を検討し評価して，その改善点を明確にして改善を図る。

- ア 評価の資料を収集し，検討する。
- イ 整理した問題点を検討し，原因と背景を明らかにする。
- ウ 改善案をつくり，実施する。